

研究課題名「乳児を持つ母親の孤独感に関連する要因—ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）利用の影響—」に関する情報公開

1. 研究の対象

本研究の対象者は、2024年4月から2025年3月末の間に、研究対象病院（別紙参照）の産科外来または小児科外来で、1か月健康診査を受けるために来院した、母子ともに健康な状態のお母さまが質問票調査の対象者です。

2. 研究目的・方法・研究期間

研究目的：

本研究では、産後のお母さまのSNS利用によって感じる効果が、育児中のお母さまの孤独感にどのくらい影響するかを明らかにすることを目的とします。産後1か月と産後3か月のSNS利用効果とお母さまの孤独感との関連を明らかにすることで、お母さまの孤独感を軽減し、育児に対する自己効力感を高めるための示唆を得たいと考えています。

研究方法：

研究対象のお母さまに、研究者または施設職員が配布した説明書をお読みいただき、研究への参加に同意をしていただいた場合には、産後1か月と産後3か月の質問票と後納郵便の返信用封筒2部を配布させていただきます。1回目は産後1か月の時期に、2回目は産後3か月の時期に回答し、シール付き返信用封筒（名古屋大学大学院医学系研究科入山茂美研究室宛て）に入れ、ポストに投函していただきます。なお、切手などの料金は一切かかりません。

1回目の調査票と2回目の調査票は通し番号でマッチングします。回収されたデータは統計処理ソフト(SPSS)を用いて処理し、分析された結果は表やグラフで表します。

研究期間：2024年4月2日～（西暦）2025年3月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

この研究では、対象者の皆様に2回質問票調査を実施します。

質問項目数は、1回目は58項目、2回目は54項目です。

対象者の属性5項目（同居家族、育児サポート状況、1回目のみ：年齢、初経産、2回目のみ：産後月数）、出生児情報2項目（授乳方法、1回目のみ：出生時週数、出生体重、分娩

様式)、育児中の母親の孤独感 20 項目、育児に対する自己効力感 13 項目、過去 1 週間の SNS 利用頻度 3 項目、SNS 利用効果 14 項目。

4. 外部への試料・情報の提供

この研究では、外部への資料・情報の提供はありません。

5. 研究組織

名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻看護学コース教授・入山茂美

名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻看護学コース博士前期課程 2 年・吉田有希

名古屋大学保健学科看護学専攻 4 年・安田円

名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻看護学コース博士後期課程/金城学院大学看護学部看護学科助教・東千鶴

福井大学医学部附属病院 助産師・宮崎由衣

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

連絡先

住所：名古屋市東区大幸南 1-1-20

電話&FAX: 052-719-1574

E-mail: iriyama.shigemi.p5@f.mail.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻看護学コース・入山茂美

研究責任者：入山茂美

名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻看護学コース

研究代表者：入山茂美

名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻看護学コース

共同研究者：宮崎由衣

福井大学医学部附属病院・助産師